








# 取り違えに特にご注意いただきたい タキサン系抗がん剤 三剤 外観比較表

## ●外観比較

ドセタキセル水和物		一般名	パクリタキセル	
日本薬局方 注射用ドセタキセル タキソテール®	日本薬局方 ドセタキセル注射液 ワンタキソテール®	商品名	タキソール®	
製造販売：サノフィ株式会社		会社名	製造販売元： Bristol-Myers スクイブ株式会社	
<p>20mg 製剤</p>  <p>41mm</p>	<p>80mg 製剤</p>  <p>53mm</p>	<p>製剤写真 (バイアル)</p>	<p>30mg 製剤</p>  <p>45mm</p>	<p>100mg 製剤</p>  <p>62mm</p>
<p>20mg/1mL 製剤</p>  <p>41mm</p>	<p>80mg/4mL 製剤</p>  <p>41mm</p>		<p>(外箱)</p>	

# ご使用になる製剤の「名称」、「用法及び用量」、「薬剤濃度」等をご確認ください

## ●組成、効能又は効果、用法及び用量の比較

ドセタキセル水和物 Docetaxel Hydrate		一般名	パクリタキセル Paclitaxel
日本薬局方 注射用ドセタキセル タキソテール <sup>®</sup> 点滴静注用20mg タキソテール <sup>®</sup> 点滴静注用80mg TAXOTERE <sup>®</sup>	日本薬局方 ドセタキセル注射液 ワンタキソテール <sup>®</sup> 点滴静注20mg/1mL ワンタキソテール <sup>®</sup> 点滴静注80mg/4mL ONETAXOTERE <sup>®</sup>	販売名	タキソール <sup>®</sup> 注射液30mg タキソール <sup>®</sup> 注射液100mg TAXOL <sup>®</sup>
1バイアル(0.5mL)中ドセタキセル20mg 1バイアル(2mL)中ドセタキセル80mg ドセタキセル濃度(プレミックス液): <b>10mg/mL</b>	1バイアル(1mL)中ドセタキセル20mg 1バイアル(4mL)中ドセタキセル80mg ドセタキセル濃度: <b>20mg/mL</b>	組成／ 薬剤濃度	1バイアル(5mL)中パクリタキセル30mg 1バイアル(16.7mL)中パクリタキセル100mg
乳癌、非小細胞肺癌、胃癌、頭頸部癌、卵巣癌、食道癌、子宮体癌、前立腺癌		効能又は 効果	卵巣癌、非小細胞肺癌、乳癌、胃癌、子宮体癌、再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌、再発又は遠隔転移を有する食道癌、血管肉腫、進行又は再発の子宮頸癌、再発又は難治性の胚細胞腫瘍(精巣腫瘍、卵巣腫瘍、性腺外腫瘍)
<p><b>乳癌、非小細胞肺癌、胃癌、頭頸部癌</b> 通常、成人に1日1回、<b>ドセタキセル</b>として<b>60mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間以上かけて<b>3～4週間間隔</b>で点滴静注する。 なお、患者の状態により適宜増減すること。ただし、1回最高用量は<b>75mg/m<sup>2</sup></b>とする。</p> <p><b>卵巣癌</b> 通常、成人に1日1回、<b>ドセタキセル</b>として<b>70mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間以上かけて<b>3～4週間間隔</b>で点滴静注する。 なお、患者の状態により適宜増減すること。ただし、1回最高用量は<b>75mg/m<sup>2</sup></b>とする。</p> <p><b>食道癌、子宮体癌</b> 通常、成人に1日1回、<b>ドセタキセル</b>として<b>70mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間以上かけて<b>3～4週間間隔</b>で点滴静注する。 なお、患者の状態により適宜減量すること。</p> <p><b>前立腺癌</b> 通常、成人に1日1回、<b>ドセタキセル</b>として<b>75mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間以上かけて<b>3週間間隔</b>で点滴静注する。 なお、患者の状態により適宜減量すること。</p>		用法及び 用量	<p>非小細胞肺癌及び子宮体癌にはA法を使用する。 乳癌にはA法又はB法を使用する。 卵巣癌にはA法又はカルボプラチンとの併用でC法を使用する。 胃癌にはA法又はE法を使用する。 再発又は難治性の胚細胞腫瘍には他の抗悪性腫瘍剤と併用でA法を使用する。 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌、再発又は遠隔転移を有する食道癌、血管肉腫にはB法を使用する。 進行又は再発の子宮頸癌にはシスプラチンとの併用において、D法を使用する。</p> <p><b>A法</b>：通常、成人には<b>パクリタキセル</b>として、1日1回<b>210mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を3時間かけて点滴静注し、<b>少なくとも3週間休薬</b>する。これを1クールとして、投与を繰り返す。</p> <p><b>B法</b>：通常、成人には<b>パクリタキセル</b>として、1日1回<b>100mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間かけて点滴静注し、<b>週1回投与を6週連続し、少なくとも2週間休薬</b>する。これを1クールとして、投与を繰り返す。</p> <p><b>C法</b>：通常、成人には<b>パクリタキセル</b>として、1日1回<b>80mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間かけて点滴静注し、<b>週1回投与を3週連続</b>する。これを1クールとして、投与を繰り返す。</p> <p><b>D法</b>：通常、成人には<b>パクリタキセル</b>として、1日1回<b>135mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を24時間かけて点滴静注し、<b>少なくとも3週間休薬</b>する。これを1クールとして、投与を繰り返す。</p> <p><b>E法</b>：通常、成人には<b>パクリタキセル</b>として、1日1回<b>80mg/m<sup>2</sup></b>(体表面積)を1時間かけて点滴静注し、<b>週1回投与を3週連続し、少なくとも2週間休薬</b>する。これを1クールとして、投与を繰り返す。</p> <p>なお、投与量は、患者の状態により適宜減量する。</p>